

ぶらり

奥州散歩道

Vol. 47

妙見山黒石寺

(水沢区黒石町字山内)



①参道の石段を登ると、すぐ目の前にある薬師堂(本堂)。4度の火災に見舞われ、現在は明治17年に再建の本堂と庫裏のみが残る

②カツラ材1本造りの薬師如来坐像(御本尊)。862年(貞観4年)像造との記録がお腹の中にあり、東北でもっとも古いとされる仏像



③本堂前の珍しい鉄製の狛犬は、南部鉄器で有名な水沢区羽田地区の鋳物師が江戸末期に寄贈したもの

④本堂に向かって右側にある、鐘楼と庫裏を囲む約50mの長い土塀。蘇民祭で、別当(住職)が加持祈祷のため本堂に向かう「別当登り」などはこの土塀前を通る

歩境内に入ると、静かで爽やかな空気が気分を一変させる。妙見山黒石寺は、水沢駅から車で約20分。国指定重要文化財である御本尊の薬師如来坐像や、慈覚大師坐像などを目当てに、東京や関西からの来訪者も多いそうです。

「12世紀以降に造営された平泉の中尊寺よりも古い歴史があるんですよ。多いときには48ものお堂が並んでいたようです」と語る、昭和55年から第39代住職を務める藤波洋香さん。寺の縁起によると729年に行基菩薩が開山し、その後戦火で焼失した寺を807年に征夷大將軍坂上田村麻呂が修築したそうです。849年に寺を訪れた慈覚大師円仁が、座禅した石窟の蛇紋岩に寺を見て、黒石寺と命名。北側にある大師山の妙見祠から山号を妙見山とし、今に至ります。さらに、東北の奇祭として全



国的にも有名なのが同寺の蘇民祭。豊穣と息災を願い、下帯姿の男衆らが川の水で身を清め、護符(小間木)の入った蘇民袋を奪い合う。これは「身分を隠した神様へ宿を提供した蘇民将来の子孫は災厄を免れる」という故事に由来しています。

神聖なこの祭りを執り行う人たちは、精進のため肉、魚などを7日前から一切口にしません。祭りの鬼子登りで神が乗り移る鬼子役の子どもまで、給食を止めてお弁当で学校に通います。

地域の根強い信仰が千年を越えて支える蘇民祭。旧暦正月七日(ことしは2月20日(土))の夜から翌朝まで行われます。豊かな年となるように、願をかけに行ってみてはいかがでしょう。か※国指定重要文化財の拝観は事前に連絡が必要です。

◇問い合わせ先 妙見山黒石寺 (☎4168)

パナソニック耐震住宅工法テクノストラクチャーの家

モデルハウス公開中!

お気軽にご来場下さい

あさ10時～夕方5時まで(火曜と水曜はお休みします)

パナソニックビルタースグループ

高惣建設株式会社

〒023-0829 奥州市水沢区花園町一丁目1番7号 ☎0120-516-812
TEL:0197-22-3111 FAX:0197-22-3120 <http://www.takasou.net/>

●オール電化 ●次世代省エネ基準クリア